明治四十四年十一月十六日 木曜日 第八百二十號 (一)
月曜休刊(日祭日之翌日休刊)
明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久幹一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

京城新報

中央財政と半島(二)

▽消極策不可なし

吾人は新聞紙上に於て、我政府が緊縮せる當國の財政を整理せんがために消極的政策に據らんとするに至れるを述べたり。而かも吾人は之に關聯して半島の財政に就て一言なき能はず。聞く所によれば特別會計に屬せる朝鮮總督府の豫算は緊縮整理を經り、近く荒井度支部長官之れを携帶して東上せんとすと政府の財政計畫が上述の如く消極的方針を執るとせらるゝなりしを以て、或は半島經營費にも多少の削減を免かれざるべしと唱ふる者あるも、苟くも半島の經營が我拓殖政策上の第一義たり且つ國力發展の要素にして、之れを忽にせんか數世紀に亘り幾多の苦心を積みし者の全く無意味に歸すべきを思はゞ半島經營費に對して妄りに削減をなすが如き事は道理上斷じて有り得可からざるなり。這は要するに消極的政策を誤解する者の杞憂に過ぎざるも、然ればとて今日の如く半島經營費の大部分を中央國庫より仰ぎをる狀態をして長く持續せんか却つて拓殖政策の實蹟を沒了し國力發展の要素も隨つて減殺さるゝ結果を見るに至る可し、故に朝鮮總督を始め半島在住者は專ら意を爰に注ぎ、早く此狀態より逸脫し以て半島財政の獨立を圖らざる可からず。而して半島財政の獨立を期せんと欲せば半島の産業をして發達せしむる外其道あらざるなり。半島統治の局に當る者は此觀念の下に財政方針を樹立し豫算を編むに際しても不生産的のものは絶對に之を排除し、計上せる費目必ず生産上の設備費或は産業獎勵費ならざるはなきに至らしめんことに努めると同時に其經費をして有効に終らしむることに熱衷すべし、これ吾人のみならず世人齊しく翹望しつゝあり半島統治當局者の義民に負ふ所大なりと謂ふべし。既往に於ける朝鮮總督府の經費豫算を繙くに、港灣の整理、鐵道の布設、道路の修築を始め大小の費目中産業發達に資せるもの少なからずと雖も、其の投費範圍極めて廣きに亘れるが爲に、却つて効果顯著ならざる嫌あり。想ふに當局者は仁政を布くは普ねく民を悅ばしめ、遍ねく地方を賑はすにありてふ東洋流の仁政主義を本とせるものならむも、凡ろ何事によらず、急を要するものと要せざるものとあり。此區別を辨せずして事を爲さんか、急ぐものは後れ急がざる事に冗費を投ずるの結果に陷り効果を收むること割合に少なきことゝなるべし。殊に現今の如き廣く淺き主義を以て推移せんか、何れも終局點まで達せずして中途半端のものとなり終らむのみ。現に總督府の施設にして此種に屬するもの多數あるにあらずや。如此にして焉んぞ財政獨立の目的に副ふことを得んや。半島統治當局者は須らく此弊を改め、力を急施を要すべきものに集中し、これが完成を見るに至らざる間は他に指を染めざるの覺悟を以て進まざる可からず、斯くして始めて經費の效用を全ふし、産業發達の實績を擧ぐるに至るべし。吾人未だ本年の總督府豫算の細目を審にせざるも、偶々中央財政を論ずるに當つて一言を添へ半島統治者の猛省を促がす。

雜錄

●下宿屋觀　不携生

低々たる哉天井陰々たる哉四疊半瘦平たる小男以て此廣狹を潤らんとすかレーシヨの哲學遂に何等ヲーソリチーを値するものぞ人生の窮達只一言にして盡す曰く運不運のみ吾此恨を忍んで煩悶すれ共死を欲せず既にヤブレカブレを決心して胸中何等の不安あるなし始めて知る大なる悲觀は大なる樂觀と一致する事を

▲同上

横柄なるかな店主憂々たるかな孤客五尺の小男此苦境を脫せんとすホレーシヨの哲學遂に何等のヲーソリチーを値するものぞ下宿屋の眞相只一言にして盡す曰く拂はざれば追出さるゝのみ吾此恨を忍んで煩悶すれ共生を欲する事甚だし既に食逃と決心して胸中些の不安あるなし始めて知る大なる惡觀は大なる膽勇と一致する事を

外事一束

△吳祿貞 貞豐に上奏して臨昌等を嚴罰せよ迚かずんば兵を逆にせんと此案文は廢の覺る處となり急に刺客を放ちしなりと彼の首北京に送らるゝ噂あり

△南京 總督張勳逃に滿朝の爲に殉死の南京を守らんとし城內の漢人を放ち二

△十餘 と以て門を固む我領事館館城準備成り陸戰隊又臨急警備す戰後則々

△牛莊 の道臺以下官民平和會を設立し獨立す近く革軍代つて民政を布かん

△米宣 教師の首唱に成る臨時救濟會は外務部を經て外交團の承認を得國際

△的慈 善團と成る日本人救濟會其一部として協力し居れりと公認の最初也

△袁首 相を踏し各省諮議局に憲法の意見を覓め自ら立憲の責に當ると電す

俳句

仁川卯月會俳句第九輯

▲題 菊いろ〜 (奉祝天長佳節)(併祝國家安靜)以上十二字中一字勝手詠込

二四 節穴を覗けば菊のうしろ哉
二四 菊の家訪ふや茶の友歌の友
二四 咲く迄の樂み長し庵の菊
二三 菊の戶や酒中の天地凡ならず
二三 鐶鑠として長壽なる菊の主
二三 金盃に受て祝ふや菊の酒
二三 九重の御園靜や菊香る
二三 貧は身に迫り乍らも菊長者
二三 野菊添て安否尋つ乳母の文
二二 天然に賤しみのなき野菊哉
二二 長生の蝶の昔るや菊の露
二一 羨まぬ隣家の富や菊の主
二〇 賤が家も秋の盛りや菊の花
二〇 白菊や氣樂さうなる一構
一九 天高く菊の香らぬ里もなし
一九 福眉も齡も長し菊の主
一九 勝菊に國風杯一首添まはし
一九 勝菊の天覽に入る譽れかな
一九 菊の香や軒傾きし賤が家
一八 節の靜居叩けば響す菊畑
一八 菊合せ留守は勝利を祈り鬼
一八 老農は國の寶よ菊作り

裏天 是空 一好 柳骨 一景 李雨 一骨 竹賀 瓢月 溪水 一骨 一杯 一樹 色薬 梅園 花卯 梅華 醉仙 溪水 松園 哲舟 花卯 俳阿彌

梁川庄八(やながはしやうはち)

第三十五回　小金井蘆洲演

然るに最前から、此方の棧敷に山城屋伊助と、見物をして居る、梁川庄八眉を顰め 庄「山城屋誠に彼の勝見山と云のは不憫だな」伊「左樣でございます、彼は至て親孝行者で、此界隈で孝行息子と云ば誰知らぬ者もございません」庄「ウム」伊「何かこれには御代官が孝太郎に宿意でもあるらしく御座いますな」庄「乃公も然う思う、相撲を名として當人に怪我でもさせようと云、代官の惡意に違ひない、殊に孝は百行の基と云ふにも拘はらず、其孝道を賞奬せずに、却て當人に怪我をさせんと云、甚だ不屆千萬な仕打だ、乃公が恰度是に居合せて何うも見捨る譯にはいかん、一番乃公が孝太郎に代つて取てやろう」伊「旦那樣夫は危ぶなう御座いますから、御止しなさいまし彼奴は今迄土俵で二人投殺したと云位な、剛力士で怪我でもなさるといけませんから」庄「イヤ〜假令相手は如何なる强うかろうが、孝子の危急を餘所に見て居ると云のは武士の本意でない、義を見てせざるは勇なきなり、と云ふ譬に照しても是れは助けなければならぬ、決して危ぶないからと〜乃公を止立するな、よもや然ふ容易に彼れに負けやふとも思はん、天道は善に與す必ず孝太郎に天の惠があつて我を助くるであろうから心配するな、縱し過ちが有たとしても義の爲に一命を捨つるは一毛を擲くより輕しおや、伊助何う致すか見物して居れ」と云放つて止めるも聽かず棧敷を立降り、見物を押分け掻き分け行司溜へ飛込んで行くから、見物一同は「何んだ彼の若い御武家樣は」と不審を打て居る中に、庄入孝太郎に向ひ 庄「こりや和泉村の勝見山さやら其方は最前から四番の相撲に大分身体疲れて、最早新手の大關鬼面山と取組む事は出來んだろうから、此方一通の譯に依つて飛入を致し、其方に代つて鬼面山の對手に相成るから、早く土俵を降ろ」代官手附の役人は 役「コレ〜浪人此相撲には飛入はなりません、れ頭からの御達しの規則でござる」庄「規則も甜瓜もある者か」役「コレ〜飛入はならんと云に、不屆千萬な」庄「默れ無禮者奴……武士は呼ぶにコレ〜とは何んだ、左樣な無禮な事があるか、禮儀作法を知らぬ代官手付の芋堀手代め見物人に飛入を許さぬと云規則を守らせやふと云のなら、なぜ代官が一人の勝見山孝太郎に、三人も四人も取組ませた、代官は規則を破つても見物人には守らせんと云、夫んな得手勝手の法が何處にある、乃公は他國の者で勝見山に縁も由緒もないが孝子と聞いて飽まで難儀を救ふと云考から、是へ出たのだ故なく止むると捨置かんぞ」當然の理屈に手代も返す言葉もなく、且つは梁川の勇氣逞ましきに、氣を吞まれてマゴ〜して居る中に 庄「こりや孝太郎其方は嘸疲れたであろう、早く家へ戻つて母の看護を致してやれ……和泉村の村役人共早く孝太郎を連れて歸れ」と勝見山の手を取て土俵から降し、早く〜とせき立て、衣類を脫ぎ袖たゝみにして袴大小を一つに下緒でキリ〜と捲いて、四本柱の乾の柱にピタリと立掛け、褌を堅く締直して、土俵へ上つて來て 庄「サア行司名乘を擧げて合せろ」孝太郎は大悅び虎口を逃れた心地して、村役人に伴はれてドン〜逃げ歸りました、行司は何でして宜いか暫く呆氣に取られて、鬼面山と棧敷の代官の方を見合せて居る、代官森本甚太夫烈火の如くに憤り大音上げ 甚「行司其無禮者の浪人と鬼面山と取組せろ、鬼面山不屈至極な其浪人者を投殺せッ」と棧敷から呼はりました、鬼面山は梁川を見て、小癪なと云はぬ計りにセヽラ笑ひをしながら 鬼「オイ合點でごんす〜、アッヤた武家れ望みに任せて對手になつて進ぜませう、行司合せて下せゑ、れ代官樣の御下知もあるだし心配しずにの 行「ハイ宜うござんす、モシ〜れ武家樣貴郎樣相撲の名は何と仰しいますか」庄「相撲の名と云のは別段ないが、梁川庄八正國と呼べ」行「大層長い名前ですな」庄「まだ肩書があるから忘れるな」行「ヘイ」庄「奥州仙臺破牢の浪士梁川庄八正國と呼べ」行「ヘエー」驚いた 東「東西〜此方鬼面山〜に片や奥州仙臺破牢の浪人梁川庄八正國儀ア…」と呼び上げました

東京電報

●奉天官民避難

奉天の形勢益々不穩なるを以て各官衙銀行は重要書類を取纏め避難の準備に忙はしく支那官吏の家族は大連及安東縣に避難したりとの公報其筋に達せり

●降伏淸艦十一隻

在鎭江加藤艦長より海軍大臣に達したる公電に依れば十三日午前一時半淸國軍艦十一隻は下江に從泊したるが我艦長は訪問し左の如く通告したり我艦隊は革命軍に投降する爲め下江せる次第なれば[illegible]革命旗を揚げ[illegible]國旗を掲揚せず

●帝國軍艦配置

帝國軍艦筑紫は芝罘に和泉は白河に何れも派遣され目下支那沿岸には帝國軍艦[illegible]

●米國海軍急航

米國政府は本國より太平洋艦隊五隻を淸國に向て急行せしめんとす

●露兵北京に向ふ

露兵千五百名砲兵隊を發して北京に向へり

●芝罘陥落公電

十三日海軍省着電山田艦長よりの電報に依れば芝罘領事よりの電報に曰く道臺衙門は革命黨の爲めに占領せられたり軍艦一隻を派遣し在留邦人を保護すべし

●孫逸仙の渡淸

目下米國に在りて近く歸國に向はんとする革命黨首領孫逸仙は最初日本に來り[illegible]

北京特電

●京漢鐵道危險

十三日發 動亂の爲め不通となり居たる京漢鐵道は十二日より一旦復舊したるも沿線の官軍相次で革命軍に投ずる爲め鐵道員危險を感じ定期の運轉困難なり

●廈門の革命黨

十三日在廈門の我艦長報告によれば革命黨は準備整はざるを以て獨立宣言を延期す尤も保安の爲め革命黨員は官民自治團を布くべく決議せり

●袁暗殺の陰謀

袁世凱は十三日午後零時二十分北京に到着したるも袁に反對の一派は袁を暗殺せん計畫あり警戒極めて嚴重なり

●梁啓超入京說

例の梁啓超は今明日中密に北京に入るべしとの說あり是れは總理袁の招電に依るものにて袁世凱排斥運動の爲めなりと觀測さる

●南京は戰鬪中

南京に於ては官軍革命軍の間に依然戰鬪繼續中なり官軍は良民を殺害し一市街を燒き掠奪を恣にしたり逃走せるもの千名に達し福州の滿人は外國居留地を燒拂はんとして成功せず革命軍廿七名の放火犯人を死刑に處したり

●二十鎭兵動靜

昨今第二十鎭の兵北京に進入なさんとの風說あるも事實無根なり今や袁の幕下たる潘矩楹は張に代はつて軍隊指揮の任に當り而して張は潘の軍隊と共に永平府に駐屯し局外中立を守り居る

●各省代表者召集

各省より代表者を公選し北京に集合せしめ大會議を開くの上奏出でたり

●革軍和議を排す

革命軍は袁世凱より派したる委員の和議案件を拒絕せり

●袁世凱の謁見

入京したる袁世凱は十四日謁見し總理大臣に就任し內閣組織後資政院と新政に關し協議する筈なり

雜報

●府廳認證の緩漫　某實業家談

京城府廳が土地家屋所有權及び賣買[illegible]就き申請者の利害を無[illegible]慢に取扱ひ居れるは事[illegible]京城商業會議所より右[illegible]くもなく土地家屋所有[illegible]に向かつて稟議したる[illegible]等の證明の申請を爲す[illegible]立する事情があつてす[illegible]が現在の樣に短かき[illegible]二四ヶ月を要しては申[illegible]利益は勿論延ひては[illegible]影響を及ぼすことも尠[illegible]知るところにては現[illegible]日々差出される所有[illegible]認證申請の數は百四[illegible]同廳に停滯し居るも[illegible]思ふに斯くの如きは[illegible]務に馴れざる鮮人な[illegible]合に尠なきと其係員[illegible]併し府廳の方の都合[illegible]原因が何であれ申請者[illegible]より生ずる不利益[illegible]には行かぬ玆に一例[illegible]鮮人が鮮人より土地家屋を買受けんとし相談纏り取引の順序として府廳へ差出すべき賣買認證申請書へ賣主なる鮮人の調印を求めんに彼れは內地人より該物件に對する代金の全額を受取らざれば調印せぬ、ソコで內地人は代金の全額を拂ひ彼れの調印を得て申請書を府廳に出す。此時手續及理屈から云へば鮮人の所有權は既に買主なる內地人の手に移つて居ねばならぬ筈だが認證が出來て仕舞ふ迄はソウは行かぬ、サア玆で認證が長引く其間に賣主なる鮮人の現に代金を受取つて賣つた土地家屋に故障が起る、或場合には差押等が執行される、ソウすると折角金を拂つて買受けた內地人はトンでもない迷惑と損失を受けることになる

尤も證明の後れるのは一トつは臺帳が不完全なのに因るのだろうが臺帳が不完全ならソレに應ずる樣に調查を要する手を多くして事務を敏活にする樣にして貰はねばならぬ、現に府廳は賣買典當其他の證明に付き千分の六の手數料を徵收して居る、斯く手數料を取り乍ら豫算が不足の爲に係員の手を增すことが出來ぬなんどと言譯をしてもソレはダメだ尤も千分の六は內地登記所の手數料に比すれば率が低い、されば府廳經費の都合により今日の率をモツト高めても良い、何にしても今日の樣に緩慢では困まる、府廳も府廳だが上級官廳たる道廳や總督府も此問題を考へて貰いたい云々

●認證緩慢に關し　高雄事務官辯明

土地家屋所有權及び賣買典當等の證明に就き當局に於ける手續の至つて緩慢にして悠長なりとの說を傳ふるものあり現に京城日本人商業會議所役員會に於ても右につき彼是れと協議せしものゝ如くなるが當局にあつては決して緩慢に附し居るに非ず否な從來係員の全部は退廳時間外は勿論日曜大祭日を廢して事務に鞅掌し尙近日よりは夜業をもなさんの方針なり而して今試みに昨年一月より九月迄に於ける漢城府時代に於ける證明件數と本年一月より九月迄に於ける現在府廳管掌のソレとを比較するときは漢城府時代にあつては七千四百九十五件にして府廳の管掌に移りてよりは一萬二千八百八十三件なり而も其の間を通じて府廳にあつては漢城府時代に比して十八の係員減少となり居れりされば係員の多忙なること蓋し推察に餘りあるべし尙之れが土地家屋等の證明にして其の所有權の臺帳に記載しあるものは直ちに證明することを得るも未だ臺帳に記載しあらざるものは殊更に係員を派して之れが調查を遂げざるべからず而して漸く調查完了となり同時に證明を與ふる場合に於て書類の訂正手續の不備等より召喚狀を發するも中には容易に出頭せざるものあり而已ならず手續の既に完了して直ちに證明を與ふる許りの運びとなりたるものにして未だに出頭せざるため證明を與ふる能はざるもの現に八百餘件あり想ふに是等のことは證明出願者の誤解となり延びて當局の手續の緩慢なるべきやを想はしむるものにはあらざるものとも問はず來る二十日迄には大體に於て從來に於る證明の手續を完了せんの方針なり若し夫れ當局の證明手續にして緩慢怠長の嫌ありとして當局を責むるものあらば當局は何時にても辯明の勞を執らんのみ云々

●支那動亂と人蔘

朝鮮人蔘の輸出先は重に南淸にして每年春秋二回に上海、漢口邊の商人開城へ來集し買ひ行くを常としたるが本秋は革命動亂の爲に未だ一人も商人の來鮮する者無く從つて本年の收穫人蔘は倉庫に藏めたる儘なりと云ふ

●商議會頭問題

京城日本人商業會議所會頭問題に就ては屢々報道せる如くなるが結局和田常一氏は種々の事情より之れが勸告を絕對、斥けたるを以て奔走者は今は殆んど失望の態にあり依つて前項の如く會議所にては十七日に役員會を開く協議を纏らす筈なるが又或る一部の說には當分從來のまゝとなし何れ時機を見て相當人物を推選するを可とすと唱ふるもある由

●京城商議役員會

京城日本人商業會議所にては會頭問題に關し十七日午後六時より役員會を開くべしと

●最近京城商況

京城に於ける最近の商況を見るに建築用品季節物は前月に比し平均約三割一分の日本酒、石油、石炭、金巾類及其他の賣行增加と示し印刷物、洋服類、肉類生魚、乾物、果物等平均約二割三分方の賣行を增加し綿糸、金物、鑵詰類、煙草、塩鹹魚海產物等は賣行減少を示せり赤輸移出品は幾分減少したるも輸移入品に於て合計十六萬七千餘圓の增加を見たり蓋つて鮮人側の實況を見るに新穀收獲時期のことゝて市場は稍や閑散の狀況にありて石油、綿布、燐寸海產物、靑物等多少好況を示せるのみにて其他の諸品は捗々敷取引なし一般の大勢は槪して不況にあらざるも何ほ好況と云ふ能はず而して淸國の變亂は目下當地市場には直接甚だしき影響を受け居らざるも支那絹布及錦、紗、糸等は多少打擊を蒙るべく蓋れり此の擾亂にして永續せんか淸鮮貿易は杜絕し此の方面に從業の貿易業者は竟に倒產の悲境に陷るもの續出するに至るべし(京城商業會議所調查)

●新鐵道沿線の發展

京元鐵道政府驛に至る沿線及び湖南線大田より江景に至る沿線に於ける狀況を聞くに工事のために入込みをる工夫等の需要品の賣行盛なると共に沿線地方鮮民も工事の影響を受けて懷合裕かになりしため近來沿道各所に開店せる朝鮮人向雜貨商などは相應の收益を擧げ延て之れが供給元たる京城の朝鮮人向雜貨卸商の如きは繁忙を極めをれりと今後兩線工事の進捗につれ益々內地人の沿線に發展すること多かるべし

●漢湖農銀貸出高

漢湖農工銀行に於ける貸出高は總額二百万圓にして內農工資金一百二十萬圓商業資金八十萬圓なりと

●粗製濫造の矯正

大坂より朝鮮に移出する雜貨は所謂朝鮮向として製造するを以て粗製濫造の嫌あり此事は既に業に一般日鮮人の不評判を買ひ凋來大阪品といへばタトと精良なる物品にても顧みざる風ありしが近年にいたりては此の弊稍や革まり追々精良なる品物を移出するにいたりたるを以て一昨年あたりに比し何分移出高を增加したりといふ

最近に於ける滿州(一)

——時事新報特派員橫尾信一郞氏談……

昨夜歸りました許りで未だ此通り取散り亂雜の有樣で……ハア一行と分れて營口と例の撫順炭坑を視察して來ましたので、一行大体の視察談は既に釋尾君杯から新聞に掲げられた事とも思ひますし、特に是れと云ふ談もありません。此度の革命軍騷ぎに就いて、滿洲地方の在留外國人は什うかと云ふんですか、夫れは我々の想像以上に騷ぎ立てゝ居ります、現に角假令隔つて居るとはいひ滿洲も南淸地方でも矢張り同國は同國だからね、外國人には危害を及ぼさぬとはいふものゝ一通りならぬ騷ぎをして居る、現に私の見た營口杯の日本在留民も騷擾を極めて居る、極めては居るが淸國側も日本側も要するに滑稽なものだ、營口杯でも例の保安會と稱するものが組織されて巡警とか知縣とかといふものが民間側の紳商等と一緒に其の會員と成り保安會成立後は從來官邊に屬した警察權は直に會へ移る而も其の會員には官吏側の人々も入つて居ると云ふ始末到底我々日本人の頭では解釋を下しかねるところだ、營口の日本人側では或る時期に於て領事館が居留日本人へ通告を發した場合に各自門戶に革命軍を歡迎せざる程度に於て日本人の住家たるを證明する意味の貼札をなすべしとの命令があつた此れは我論我が內閣の對淸否革命軍に對する態度が營口領事に知られて居らぬ爲めで一朝革命軍でも襲來した曉には淸國人ならば其の讚漢人たるを問はず等しく直に革軍歡迎の意嚮を示すのであるが日本人としては北京朝廷に對する遠慮と斯る所業のなきやうに領事が注意したに過ぎないのだ、大体から云ふと滿洲各地の淸國人等は否日本人其他の諸外國人と雖も、寧ろ革黨に左袒する傾向を示して居る、無論其の大部分は例のワイ〱連の氣分たるを失はぬ、奉天へは往路と歸路の二度滯在視察をした、往きには何等格別の變りもなかつたのが、僅か一週間前後の歸途に再び滯在して見ると、既う同地には營口同樣保安會なるものが成立して道臺、巡撫、巡警等が民間側の紳商等と共に其の會員となつて居る警察の如きも玆に保安會の所屬と官吏側のものと兩立して居る理であるので若し革命黨が奉天城內に入り込んだと假定して其の場合保安會は無論革黨に投合するは明かで只官吏側の軍隊警察等革黨に同意を示しさへすれば、直に廣東同樣官軍革黨に投すとなるのであるし其の保安會員には既に道台其他が屬して居るのだから、要するに珍紛漢紛なもので、奉天其他淸國各地の電報情報なるものゝ變化が甚だしいのも亦此理だ、又た奉天は淸朝の根據地で自然漢人が大勢力を占めて居ると誰しも思惟するが其の實際は大違いで其の有力者殊に敢て奉天と限らず滿洲各地到る處有力なる紳商等は多く漢人であつて滿人は殆ど之れを見ないのだし、其他下層の滿人等は唯其日を糊せば是れ足れりの狀態であるから、奉天を始め滿洲各地共革命黨に對する同情が寧ろ極めて大なるものである(つゞく)

●朝鮮辭書編纂

總督府取調局にては本年四月より朝鮮の辭書編纂に着手し滿二ヶ年を以て完成の豫定なるが右は從來の辭書に比し極めて完全なるものにて社會上總ふる學藝技術等に於ける術語等をも網羅すべしといふ尙既報令より五十年以前に發布せし法令「大典會通」の飜譯は全部脫稿したるを以て近々上梓に付する由なるが右は朝鮮の舊慣を知る上に於て屈强なる冊子なりといふ

●仁川港出入貨物噸數

十月中に於ける仁川港出入貨物は輸入品六十七万六千四百三十一噸內地より移入品二百五十八萬八千五百三十一噸沿岸各地より移入品六萬九千九十四噸鐵道運帶移入品三萬二千二百三十二噸輸出品八萬六千八百九十二噸內地移出品二十一萬百九十四噸沿岸移出品八万九千五百五十一噸現在保稅倉庫入庫品四十四噸ありと

●電車復線工事着手

既報日韓瓦斯電氣會社にては去る八日より古市町より漢江通り一丁目二哩にいたる電車の復線工事に着手したるが來月中旬頃には全部竣成を告ぐべしといふ

●道路擴張と土地買收

既報黃金町より光熙門にいたる道路擴張は永樂町二丁目より光熙門にいたる間の土地家屋買收は餘すところ四五を殘して其の他は全部買收濟みとなりたるを以て近々の中より黃金町通りの買收に着手すべしといふ

●宇佐美長官の引籠

宇佐美內務部長官は微恙のため十五日引籠療養中

●荒井長官の出發期

荒井度支部長官は明年度豫算案を携へ兩三日中當地出發二十日迄に着京の筈なりと

●外波少將の歸任

寺內總督に隨ひ福岡縣に出張中なりし外波少將は十四日午後八時着歸任したり

●森安博士の出張

總督府醫院の森安博士は朝鮮內地に於ける韓地療養地實査のため溫陽、東萊、馬山の各地へ一週間の豫定を以て出張したり

●山口書記長の訪問

當地商業會議所書記長山口精氏は淸酒防腐劑の件に付十五日午前十一時警務總監部を訪問す

●仁川附近漁況

仁川附近に於ける十月中の漁況左の如し

△於靑島の煎雜魚　於靑島に於ける煎雜魚製造業は佳良の成績を擧げ仁川港にて製造品販賣委託を受けしもの約五千貫目に上り品質亦良好にして賣行盛にして價格も相當に保たれしと

△布海苔採取業　布海苔は平年に比し收穫を減じ價格は百斤四十四五圓乃至五十五圓を唱へをれり

△各華類の漁況　鹹水魚類は潮水の冷却に從ひ溫流に向つて游泳するを以て此種に屬せる漁況は至つて見るべきものなし道は季節上如何ともし難し漁獲高は鯛の六千三百圓を最高とし其他の魚類一萬六千四百三圓にして出漁船は多く釜山方面に回航し一本釣漁業者の如きは本邦に歸り鮑採の潛水業者は氣候の寒冷に從ひ全然事業を休止したり漁船數は五百九十七隻從業者は日人三百四十八人鮮人二百五十七人なり

●京龍の出生と死亡

最近京城民團役所の調查に據るに京城及龍山に於ける內地人の出生は每月百五十八人にして之に對し每月死亡する者百人余なれば差引五十八人宛每月出生による人口の增加を示す割合なりと云ふ

●鍍江の河流發鉄

咸鏡南道永興郡鍍江市場北方の河流は冬期又は降雨の頃には每年決潰するを以て同地の日鮮淸人等は協同して堤防を修築することになり多分明年春より着手する豫定なりと云ふ

●豆滿江の鮭漁

豆滿江の鮭漁は九月中を盛漁期とし十月上旬以來漸く漁獲減少し居りしか同中旬には僅かに四五網となり二十五日を以て全部引揚げたり

●龍岩浦の暴風雨

十二日の未明平安北道龍岩浦に暴風雨あり家屋の破損したるもの多く殊に浦口にありし帆船十九隻は大破損し猶は其他に六隻流失したりといふ

●滿鮮直通列車

十六日午後八時三十分南大門發△十七日午前〇時二十分南大門着

公人私人

▲矢內宗良(東亞煙草會社技師) 十四日山本へ

▲水野悅道(陸軍一等軍醫) 十四日不知火へ

▲尾崎俊甫(南陽金融組合理事) 十四日原金へ

▲高橋異治(利川金融組合理事) 同

▲下山鎭之助(安城警察署長) 十四日安城行

▲柴日又三郞(鳥致院郵便所長) 十四日鳥致院へ

▲京城手形交換高▼

十一月	金高	枚數
十五日	一七七、八六五、七三〇	八五八

▲治外法權▼

支那の革命も、昨今の情報に因ればモハヤ第一期乃ち血腥き破壞の時期を過ぎて、第二期乃ち妥協建設の時期に入つたらしい▲袁の入京、黎の宣言、ツマリは建設を語るもので、問題となるのは主力所在の變更、サテ北京朝廷はドウなるかな▲一寸聞くと今度の革命軍は其破壞力を極端迄用ゐる樣に見へる、併し今の支那人は昔日の支那人に非ず、アマリ極端までヤツテ、列國の干涉を招ねぎ、延いて瓜土分割なんどの問題を惹起す樣な愚は演せぬ▲サテ第一期の破壞時代が過ぎ愈第二期に入つたとするとコレから袁や黎や黃や孫や其他の人物やの眞價が判かる、ガルバヂー、マヂニー、カブウルには實際誰れがなるか▲南滿鐵道は革命の爲に商況不振荷動き少なく稍困まりかけたトコロが同鐵道のドコ迄も運なる、大豆や他の商品やの多く動かぬ代りに今は避難客が多く動くと云ふ譯で南滿はヤッパリ儲かる▲十四日夜南大門發奉天行寢臺車はれ客として岡野告天子一人を乘せてタッタが該寢臺車を釜山迄ヤッテモッとれ客を拾つてはドウだ▲土地賣買證明を府廳へ申請に行くと火の無い受付に三四時間も待たせるとの非難があるが眞乎。

チャンピオン傳（廿）

豫報一束（上）

雜貨屋小僧投

（前略）小僧も少々の種は見付けて置きましたからお知らせしたいと思ふて居りますが餘り詳細の報告は後からとして鳥渡筋骨的に申上げますれば

▲第一　本町九丁目邊に泣くての泰斗があります最も泣くことは女には夥多あることで左程不思議もない元來婦人は血を出すこと〻涙を流すことを止めると必ず發狂すると云ふ、是れは疑ひもなき事實で生理學者の證明する處である自然の生理が婦人は泣くべく造られてあるのだ、然るに小僧の報告するのは男子も男子併も立派な八字髯を蓄へた男ですから堪らない體に楠公戰陣以來の泣き男であらう兎に角傳中の人たる資格を失はぬものだ

▲第二　大和町三丁目に催眠術の大先生があります、之れは鳥渡見出し難くい、と言ふものは御本人は決して口に出さず又實地に行ひもせず深く秘して居ります、併し仲々の達人で一寸例を申せば途中人の何氣なく歩行し居るを僅かの氣合で確と止め得る樣は申さば魔術に近い事をやります、何んでも此人は總監部あたりの金筋と申す事は當地に於ける催眠術者のチャンピオンでせう。

▲第三　蛙の大好きな奥樣がある、これは何んでも蛙の形狀したるものなれば象牙は勿論、陶器であらうが彫刻ものであらうが苟くも蛙の形ちしたるものは皆御買上げになる、底で本物と來たら目はない脊蛙でも赤蛙でもヒキでもすぐ御飼養になる併し當地には餘り蛙が見付からない、夏向きは時々漢江の汀に「カヂカ」を漁り玉ふことあり夫の日向輝武夫人が蛇を寵愛し玉ふは有名なる話なるが兎に角偏愛的好賞心より申せば之れも僅かに一種のチャンピオン傳中の人なり何んでも新築の南山官舍中蛙奥樣の仇名が高官連中の呼びものになつて居るさうだ

▲第四　南大門外に住居せる鐵道驛夫？に酒呑童子の再生とも申すべき酒豪がある、何んでも今は龍山へ移住したらしいが、朝三升晝三升晩二升と云ふ豪的で迚も少々の收入では賄ひ切れず安ボイ酒でも呑むわけには行かぬ、そこで渡鮮後は一パイも口にせぬと云ふて居た、名古屋の猩々會（大酒家の會合）で二等賞を得たと云ふて威張つて居た、序に鳥渡申ますが、この猩々會は尾張、伊勢、美濃、三河、遠江五ケ國の大酒豪の寄合ひで何人たりとも會員となることは差支はない先づ會場の受付けで一升桝に波々とつぎたる冷酒一升を何の苦もなく桝の隅よりグイと呑み乾したるものは會員の資格ありとして入場を許すなり此會で二等賞を得たと云へば**冷酒一斗以上**は優に呑み得るであらう是れも經驗上のチャンピオン實地を試驗するにも手數はいらぬ兎もあれ傳中の人だ。

●松葉、相生の行衛

▽二人ともに龍山住居

新町遊廓大桝屋の二枚藝妓の相生と云ふは踊るの凄腕にて毎に職を爭ふ流行妓夫れに引き換へ松葉と云ふは鯑巧者ながら誰にでも無心を吹き掛けるので三度と客が返らず爲めに席順も中程より上りし事なかりし其兩人が本月上旬芽出度廢業に及んだので事情あるべしと物好にも探つて見たるに相生の旦那と云ふは龍山元町の土木建築請負業藤勝組の店員一柳某とて先頃新町病院治療主任醫士杉原氏の舍宅工事を請負ひ工事場に出張し居る內工事場が大桝屋と隣り合つて居た處から自然相生とも顏を見合はせる事ありしに相生は申す如き手取女なれば笑つて損はなしとニコリ〳〵して見せたので終に一柳は笑顏を見て居る斗りでは氣の毒な如な氣に成り一度登樓してからと云ふものは双方熱く成りお定まりの夫婦約束此工事落成の上工事金受領と同時に落籍すべしとの契約も纒つたり、話は代つて一方松葉は本年三月二十一日契約年期は滿ちたるも別借金の爲め年期を增して稼ぎ居れるのなるが豫て新町病院の主任杉原氏の助手大日向某と云ふ頗るの高襟男と馴染み夫れが爲め人の嫌がる一周二回の檢査も苦にならず却つて嬉し樂んでる程の交情なれば殘る別借金の三十餘圓を返したら公然夫婦となるべしと互に堅く言ひ交し居たるなるが過日杉原氏の舍宅も落成し工事金の授受も終りたる日杉原氏は一柳初め大工左官の一同に大振舞をせしに一柳は杉原氏と大日向とを無理に誘ひ出し大桝屋に登樓せしも杉原氏は間もなく大日向にも可成早く歸宅せよと申託き立返りたるが一柳は勿論ながら大日向も前記の事情なれば二日二晩打ん流し目を擦り〳〵歸り來しにう短氣者の杉原君大日向を二つ三つ打ん擲つた上解雇したので困つたは松葉、と云ふのは松葉と相生とは姉妹分の事なれば豫て相生の落籍と同時に一柳が松葉の借金も支拂ひ相生は本姓の伊藤やすに返つて一柳が留の妻、松葉は本姓の秋元とみとなつて大日向が女房となるべき筈であつたに一方が解雇せられたと聞いて一時途方に暮れて居たが間もなく一柳の盡力にて大日向は桃山病院の助手に住み込んだのでヤット松葉も龍山邊の温突に燻ることになつたのなりとは芽出度し

●贋大島紬と紳士

▽大慾は無慾に似たり

近頃當地の紳士や役人で大島紬の上等を十四圓で買つた十五圓で買つたと盛んに嬉しがつてる人が澤山ある其內の一人に何所で買つたかと云つたら賣りに來たのを買つたと云ふ、大島紬の上等が十四五圓で買へると云へば殆んど只も同樣だ夫れでは俺も一反と買つた奴で考へると只同樣で買つて歩行く商人が活きて居る所を見ると幾分儲があるに相違ない只の樣に買つて尙且つ儲かると云ふのでは贓品か何かで無ければならぬ贓品とすれば左樣澤山に同一品がある道理もない一寸怪しいと遲蒔ながらも當然な疑を起した或る紳士が三越呉服店に持ち込んで鑑定して貰うと本場大島紬とは與赤な僞りで近頃名古屋で織り出す精巧なる名古屋大島と云ふ絹ガスリにて直段も七圓から九圓位迄の物と判明して口アングリ腹は立つても元來自分が卑しい量見から招いだ事とて公然にも出來ず後悔い臍を嚙めて居ると、皆樣御要心が肝要

●愛婦會員と施療患者

愛國婦人會員三十餘名は十四日打揃ふて總督附醫院を訪問せり同院にては河野小兒科長は乳兒哺育上の注意、藤井婦人科長は子宮癌腫に就て、荒井皮膚科長は冬季に於ける皮膚の攝生に就て講演を爲し終て院內の案内にて施療患者を一々其病床に慰問し殊に見舞として菓子一包宛の寄贈あり患者は起座し得る者は低頭默禮し中には感涙を催す者も見受けたり又笠谷外科長が影寫せるエッキス光線にて一同頗る其精巧に驚きたる模樣なりし其他滿開せる菊花大小幾百の鉢を並列せる本館各病室より新築落成せる看護婦寄宿舍を限なく參觀後同院背後の老松鬱蒼たる回春園の樹間、落葉莚を敷きたる如き間の新築分室に於て茶菓の饗應を受け何れも僅か一年間に於ても斯くも擴張と諸事整頓せるに驚嘆し同五時退散せられたりと

●迷兒の親許判明

十四日午後七時頃仁川萬石洞木村商會前に於て七才位の鮮人學徒帽子を冠り歸途を失ひ大聲を上げ泣き叫び居りしを萬石洞南仲壽が認め一應自宅に連れ來り一夜宿泊せしめ保護を加へ置き直ちに警察署に報告なしたるより十五日朝に至り該兒は仁川府內面外洞時計商劉源桂の次男斗一（七つ）なる事判明し劉に引渡したるが劉は元江華郡に居住せし者なるが近頃同所に移居せしより斗一が外出のまゝ遊びに耽り遂に迷兒となりしなりと

●雇人は泥坊

壽町二丁目仕立職中村方職人長崎縣人田中松次郞（三九）は十月十八日より中村方に雇はれしが本月十一日の夜同家二階に置きありし銘仙男袷一枚を窃取し之れを入質費消し南部署に捕はれ取調中彼れは平壤大和町に昨年七月頃在住し當時同地基督敎會堂附近中川某方に於て衣類外數點を窃取したる事を自白したりと

●實子を虐待

櫻井町五十番戶田村寅六は實子を如何なる理由にか虐待し食事も滿足に與へざるより近隣の某々同情し食事を與へる事屢々なるを南部署の聞知する處となり十五日南部署司法室に田村を召喚し嚴重なる訓戒を與へたりと

●觀音講と說敎

花園町曹洞宗日韓寺にては十七日午後一時より月並觀音講說敎並に禪學進話等ありと

●演藝だより

▲壽座　千里眼三田光一一行の大奇術
▲歌舞伎座　吉田奈良男一行の浪花節
▲浪花館　好評を博したる娘義太夫竹本小浪の一行は十五日限り打揚げ木浦へ向け出發する筈なるが同館の跡興行は彼のれ馴染の若遊三一行にて十八日初日を出す筈なりと云ふ

●壽座と歌舞伎座

舞良狹衣

壽座には三田光一と云ふ千里眼とやら自覺術とやら恐ろしい肩書の奇術師？が來て居る、歌舞伎座には天下の名人吉田奈良丸の高弟吉田奈良男と此も又頗る長い肩書の浪花節語が來て而して初日も同時であつた、三田光一の手際は美事だ、イヤ素人欺しの手品に毛が生へたのだ、奈良男は聲こそ痛めて居るがナカ〳〵巧手だ、イヤ巧手處かいゝゝゝラッペタだ聽かれたものぢやない、と評判は區々だ、夫も無理はない下戶は酒を「アンナ辛い物」と云ひ上戶は餅を「アンナ胸のやける物」と貶す世の中だ、其好む所に偏して黨するのは當然であらう、然らば褒められたとて甚だしく樂觀も成るまじく貶されたとて苦には成らん筈だが拙夫が苦になるのは直に收入に差し響くからだ、貶されるよりは褒められた方が氣持斗りか財囊も工合も好くなる譯なれば茲に褒められ樣と競爭する事になるのだが如何に褒められ度も肝腎の正味が惡くては駄目の皮の腰巾着、何時も他人の尻につく〳〵憂目を見るなり、其樣々の噂に引出されて十三日の夜

▲歌舞伎座に行く彌次の柳生仙吉面白く聽かせたり桃中軒天一美聲ながら難聲、長講は苦し相だが會話は輕く面白い同夜は間垣平九郞を讀んで大に佳かつたが立小便の手眞似なぞはいゝゝゝあらずもがな、奈良男の神崎與五郞生立より東下りまで長講二席、痛めたる咽喉の塞らねば批評の的がなし故に省く、序を以て申すが雲右衛門と云はず奈良丸と云はず皆んな既に本來の浪花節と云ふものゝ埒は脫して雲右衛門節奈良丸節と云ふ一派を樹立して居るのだ、夫れを知らずに誰のは斯うだ彼のは斯うだと比較するのは延壽と六左を比較すると一般愚の骨頂なり、蓮門敎は日蓮宗から出たのだがアー變つては日蓮宗とは申さぬなり、此所の道理が判つたら一種の邁址を覺ゆる浪花節と云ふ名に縋つて居ず調聲節とでも變へては何うだ、如何に諸先生方

▲壽座　曾て一記者の報道した通り不思議だ、疑つて見れば限りもないが兎に角不思議な透視術、十四日の夜の試驗物提出者中には總監部の山形中佐中野警務課長、亥角保安課長、今村南部署長等の一連があつたが此は千金丹と菓子で千金丹の方は當つたが菓子はパンと見違ひ九分九厘までの的中、疑へば限りもないが兎に角一度は試見せらるべきである菊家の文之助と菊枝は實母を伴ふて見物して居た、八時頃宋秉畯が總監部連の中へ割込んだ、光一の奇術の合の手に彈奏するヴアイオリンの拙さ加減は蓋し話にならない

▲歌舞伎座の奈良男は聲を痛めて居るが爲めに可愛相に不評判だが時も時折も折とて氣の毒さも一層だ一つ癒つた所で名譽恢復興行でも行つて仕舞うだらうか（同情生）▲白水の仲居に何とか云ふのがある、あるのが當然だ決して不思議ではない夫れを不思議と申さぬが其のれ何か油を舐めると云ふことだ▲夫れも不思議はない何故なれば僕等は天ぷらを食うではないか併し天麩羅は油が胡麻だ食うべく出來てるが此の女の舐めるのは石油だ相だ▲相だと云ふ話だから名前なぞは聞いても用が無いから聞かなかつたが事實なら珍は珍だが奇であらうと思はれるが（風園子）▲貴紙三面に十月三十一日より六回に渉り連載せられたる五蕊妓涙の內情と題する記事は堀內實不在中妻くにが夫の命なりと稱して貴社に謝罪を入れ記事中止を申込みたる由なるが堀內は內地より再び渡鮮し改悛の狀なきのみか謝罪狀持ち行きたる雇人某を叱責し且つ養女分の藝妓金一の自由を拘束監視し又金奴金子の二妓に對しては衣類を差押へ不法の行爲を爲し新聞記事杯は平氣だと公言し居る風敎保持の上より再たび筆誅せられんことを希望し合せて當局官憲の干渉を希望す（同情生）▲果して事實なりや精探の上（係）